

聖書：詩篇 19 篇

説教題：神の栄光を告げるもの

一年に一度、天候が許されれば外で礼拝する機会を持っております。学校には野外授業というのがありますが、外に出てもう一度神の恵み味わいたいと願っています。

1 節にこうあります。「天は神の栄光を語り、大空は御手のわざを告げ知らせる。」そして4 節。「しかし、その呼び声は全地に響き渡り、そのことばは、地の果てまで届いた。」天や大空はことばを語るわけではないのに、全地に響き渡るほど大きな声で語っていると書いています。例を挙げましょう。今週の21日は一番昼が長い日が夏至です。どうしてその日が夏至だとわかっているのか。5 節に「太陽は、勇士のように、その走路を喜び走る」とあります。太陽がいつどこを走ると「走路」が決まっているので、いつ夏至になるのか計算できます。太陽の動き方のものが、ひとつのことばと見ることができます。

でも不思議ですね。どうして太陽は定まったところを走るのか。だれがそんなふうを決めたのでしょうか。創世記にはこうあります。「神は仰せられた。「光る物が天の大空にあって、昼と夜とを区別せよ。しるしのため、季節のため、日のため、年のためにあれ。」」（創世記1章14節）神が語ったことばによって、太陽が造られ、そして定まったところを走るようになり、天は神の栄光を語っています。

私たち人間も神のみことばによって造られました。でもアダムとエバは神のみことば

に背いて罪を犯してしまいます。それ以来、私たちは罪を抱えながら生きています。こう考えてみたらわかりやすいでしょう。

皆さんは、あしたの朝太陽がどの方向から昇るか予想できますか。もちろん東から、と答えます。どうしてわかるのですか。神がことばを語り、そのように造ったからです。太陽はきまじめですから、およそ46億年の間、同じ所を走ってきました。

ところが人間はそうではなかった。本来、私たち人間も太陽と同じように走るべきところが定められていました。ところがあるとき、この道ではなくあっちの方向に走ってみたいと思うようになり、神が定めてくれた走路から飛び出してしまう。言ってみれば、太陽が西から昇っているようなものです。ありえないでしょう、そんなこと。でも、それが今の私たちの状態です。

私は信仰を持つ前、こう思っていました。「他人に迷惑をかけさせなければ、自分の好きなとおりに生きて何が悪い。私の人生に神は口を出して欲しくない。」でもあるとき、自分の力では解決できない大きな問題にぶつかってしまいました。他人に迷惑をかけなければ何をしても良い、と言いながら、実はほかの人に大きな迷惑をかけている。まったくの自己中心です。おそらく、私だけではなく多くの人たちは同じようなことで苦しんでいるのではないかと。

どうしたら良いのでしょうか。私たちを造ってくださった方の所から離れてしまった結

果、苦しんでいます。であれば、神の所に戻るしか解決の道はありません。でもどのようにしたら神の所に戻ることができるのでしょうか

私はかつて信仰を持つ前、少しだけ聖書を読んだことがあります。「あなたの隣人を、あなた自身のように愛しなさい」と書かれていました。それを読んで、こんなふうに思いました。「教会に行っている人たちは心のきよい人たちなので、多分これができるのだろう。けれども、とても自分にはできない。」なんとなく悲しい気持ちで、教会は自分なんかが行くような所ではないと思ったことがあります。

では教会はどんな人が行く所なのでしょう。やっぱり心のきよい人が行く所ですか。だったら私はとても行けません。

心の中は真っ黒け。人に言うのも恥ずかしい罪だらけ。謝っても謝りきれないひどいことをしてきた。自分は汚れていて、とても神の所へ戻る資格などない。そう思っている方こそ、実は神の近くに招かれています。嘘だと思うのでしょうか。

今、皆さんの頭の上では太陽が輝いていて、暑いなと思っていらっしゃるでしょう。6節に「その熱を免れるものは何もない」とあるとおりです。それと同じように、主のきよさから逃れられる人はひとりもいません。真っ黒な心の中に聖い神の光が射し込んでいきます。そうするとだれだって心がちくちく痛みます。ダビデもそうでした。彼はこう祈ります。12節。「だれが自分の数々の過ちを悟ることができましょう。どうか、隠れている私の罪をお赦してください。」

私たちは、まるで太陽が西から昇るような大きな間違った生き方をしてきました。自分

の手で元に戻すことはできません。できることは、「私の罪をお赦してください」と申し上げるだけです。

神はどうされるのでしょうか。悪いやつだと言ってひどい罰を与えたでしょうか。イエス・キリストはこう言われました。「天の父は、悪い人にも良い人にも太陽を上らせ、正しい人にも正しくない人にも雨を降らせてくださる。」(マタイ5章45節)

皆さんの頭の上には太陽があります。当たり前に思っていたかもしれません。そうではない。私たちは大きな間違ったことをしてきたのに、神は私たちをあわれみ、今日も太陽を昇らせてくださっていたのです。ですからこわがる必要はありません。恐れずに、「私の罪をお赦してください」と言ってよいのです。

そうしたらどうなるでしょう。私たちは、小さなときから自分の栄光を現そうと必死にがんばってきました。輝いた人生を送りたいとだれでも思いました。でもできましたか。できたと思ってもなくなっていくます。生きる意味がわからなくなり、むなしい思いをしています。

「私の罪をお赦してください」と告白するとき、神は私たちを救い、元のところに戻してくださいます。ただ元の所に戻すわけではありません。神から与えられていた栄光が私たちをとおして現されてきます。その輝きは永遠に続きます。太陽でさえ、喜びながら走っています。まして、私たちにはもっとすばらしいのちと喜びを主は与えてくださいます。

ともに主の御名をあがめましょう。